

No. 5

2024/1/31

小野友道の

お節介な戯言

ラテックス製ゴム手袋（１）



皆さんが院内で使用されておられる手袋、一つはラテックス（生ゴム）製の手術場などで無菌的に用いるもの、そして日頃の処置などで用いる青い手袋（合成ゴム：ニトリルブタジエン）がある。これらの製品はどこで作られているか気にしたことがありますか。どちらもマレーシア製でした。2020年現在世界で使われている医療用ゴム手袋の5分の3の原産国はマレーシアです。

今回はまずラテックスについてお話ししましょう。1496年コロンブスがハイチ島で原住民たちがボールのようなもので遊んでいたのを見てそれを持ち帰ってみましたが、何も役に立てる術もなく約200年放置されていました。それを再度持ち込まれた際にイギリスのジョセフ・プリーストリーが鉛筆の文字をこのゴムで擦り消しその有用性を見出しました。ゴムは消しゴムとして最初に役立ったのです。その後ゴムの利用はグッドイヤーがラテックスに硫酸などで処置した保存用生ゴムの発明で飛躍的に発展し、今日、手袋をはじめタイヤなど文明生活に欠かせない素材となったのです。

この素材の生ゴム（ラテックス）を採取するゴムの木は日本でよく見る観賞用のゴムの木ではなくパラゴムの木（*Hevea brasiliensis*）で、ブラジル原産ですが、1875年頃から主として東南アジアのゴム園で栽培されるようになりました。10年ぐらいかけて大きく育ったその幹を傷をつけて得られる粘着性の白い樹液がラテックスです。これに硫化物などを加えたもの（硫化）を保存用ラテックスといいます。これを手袋などに加工するのです。ラテックス製ゴム手袋は手術の無菌的作業に驚異的な効果を挙げて来たのはご存じのとおりです。前回ご紹介したハルステッドの手術用手袋の発明以来今日までラテックス製ゴム手袋は、例えばエイズの登場でさらに需要が増したりしました。しかし、中には粗悪な製品も登場し、そのうち頻回に使用する手術場の看護師さんたちにいわゆるラテックスアレルギー、なかんずくアナフィラキシーを引き起こすことが知られてきました。